

厚生労働省和歌山労働局発表
平成 29 年6月23日

担 当	厚生労働省和歌山労働局
	労働基準部健康安全課
	健康安全課長 井上 剛宏
	産業安全専門官 豊倉 慎一
	電 話 073 (488) 1151
	F A X 073 (475) 0113

ストップ！熱中症

～～職場における熱中症ゼロを目指して～～

和歌山労働局（局長 中原正裕）では、猛暑が予想される今夏、職場における熱中症の予防のため、別添のリーフレットの配布等を含め、取組を強化しています。

1 全国の状況

(1) 平成 28 年の職場における熱中症による死亡者数は 12 人で、前年より 17 人減少し、過去 10 年間では、2 番目に少ない数値であった。

業種別では、建設業で半数以上（7 人）発生しているほか、農業、林業、清掃業、商業、その他で各 1 件発生している

(2) 死傷災害は 462 人で、前年に比べ 2 名の減少にとどまり、依然として高止まりの状況にある。（別紙 1 参照）

2 県内の状況

(1) 和歌山県下の平成 28 年の職場における熱中症による休業 4 日以上之死傷災害は 7 人（死亡 0 人）で、平成 20 年以降では最多であった。

(2) すべて 7 月、8 月に発生しており、製造業で 3 人、建設業、運輸業、清掃業警備業で 1 人ずつの発生であった。（別紙 2 参照）

《注》熱中症とは、高温多湿な環境の中で作業や運動をすることにより、体内の水分や塩分のバランスが崩れ、体温調節機能がうまく動かなくなり、体内に熱がたまることによって、めまいや筋肉痛、吐き気、さらにはけいれんなどを起こす病気です。

職場における熱中症による死傷災害の発生状況

1 職場における熱中症による死傷者数の推移（平成19～28年）

過去10年間（平成19～28年）の職場での熱中症による死亡者数、及び4日以上休業した業務上疾病者の数（以下、合わせて「死傷者数」という。）をみると、平成22年に656人と最多であり、その後も400～500人台で推移している。平成28年の死亡者数は12人と前年に比べ17人減少したものの、死傷者数は462人と、依然として高止まりの状態にある。

職場における熱中症による死傷者数の推移（平成19～28年） (人)

19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年
378	280	150	656	422	440	530	423	464	462
(18)	(17)	(8)	(47)	(18)	(21)	(30)	(12)	(29)	(12)

※ () 内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数。



2 業種別発生状況（平成24～28年）

過去5年間（平成24～28年）の業種別の熱中症による死傷者数をみると、建設業が最も多く、次いで製造業で多く発生しており、全体の約5割がこれらの業種で発生している。なお、平成28年の業種別の死亡者をみると、建設業が最も多く、全体の約6割（7人）が建設業で発生している。

熱中症による死傷者数の業種別の状況（平成24～28年） (人)

業種	建設業	製造業	運送業	警備業	商業	清掃・ と畜業	農業	林業	その他	計
平成24年	143 (11)	87 (4)	43 (0)	27 (2)	35 (0)	28 (1)	7 (0)	6 (2)	64 (1)	440 (21)
平成25年	151 (9)	96 (7)	68 (1)	53 (2)	31 (3)	28 (2)	8 (1)	8 (1)	87 (4)	530 (30)
平成26年	144 (6)	84 (1)	56 (2)	20 (0)	28 (0)	16 (0)	13 (1)	7 (0)	55 (2)	423 (12)
平成27年	113 (11)	85 (4)	62 (1)	40 (7)	50 (0)	23 (2)	13 (1)	8 (0)	70 (3)	464 (29)
平成28年	113 (7)	97 (0)	67 (0)	29 (0)	39 (1)	37 (1)	11 (1)	13 (1)	56 (1)	462 (12)
計	664 (44)	449 (16)	296 (4)	169 (11)	183 (4)	132 (6)	52 (4)	42 (4)	332 (11)	2,319 (104)

※ () 内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数。

和歌山県における平成20年から平成28年までの熱中症による労働災害(休業4日以上)概要

和歌山労働局

(別紙2)

年	月	発生時間帯	性別	年代	業種	作業の屋内・屋外の別	災害の概要
20年	7月	14時台	男	30才代	製造業	屋内	排水処理工場で、作業中に四肢に痛みを伴うけいれん、嘔吐症状を呈したことから、熱中症と判断し救急搬送した
	9月	1時台	男	50才代	建設業	屋外	工事現場で、1日(8時から17時まで)の作業を終え帰宅。就寝中の1時頃急に発熱し、翌日病院を受診、熱中症と診断された。
21年	7月	12時台	男	60才代	警備業	屋外	競技場で警備作業に従事していたが、休憩場所で休憩中、気分が悪くなり倒れた。
	7月	13時台	男	60才代	建設業	屋外	工事現場で、屋外作業を行っていたところ気分が悪くなり、以後の作業を中止し、翌日、翌々日と休んでいたが、翌々日の19時頃容態が悪化し、病院に搬送された。
22年	7月	17時台	男	20才代	運送業	屋外	配送先で荷物の積み込み作業を行った後、配送先の事務所に向うため駐車場を歩いていたところ、意識を失って倒れた。
	8月	16時台	男	50才代	建設業	屋外	屋外の資材置場で整理作業中、気分が悪くなったため、木陰で休憩、再び作業を行い帰宅。回復すると様子を見ていたが、翌日病院で熱中症と診断された。
	8月	15時台	男	50才代	製造業	屋内	塗装作業を行っていたところ、昼頃からめまい、嘔吐したので作業を切り上げ、病院で診察を受けた。
	8月	14時台	男	30才代	建設業	屋外	工事現場で舗装作業後、気分が悪くなり、手足のしびれ、けいれんが起こり休憩していたが回復せず、病院を受診、入院した。
23年	7月	16時台	女	50才代	小売業	屋外	車内で営業の待機していたところ気分が悪くなった。
	8月	13時台	女	60才代	製造業	屋内	厨房内の洗い場で食器洗浄中、手足の痺れ、足の震えを感じたため病院で診察を受けた。
	8月	15時台	女	50才代	製造業	屋内	工場内において、パック詰した製品を運搬中、気分が悪くなり倒れた。

24年	9月	14時台	男	30才代	建設業	屋外	屋外で基礎工事に従事していたが休憩場所で休憩中、腹痛、足の痙攣を訴え、病院で診察を受けた。
	8月	11時台	男	60才代	建設業	屋内	建設会社の倉庫内で資材を整理中に熱中症により倒れた。
25年	8月	12時台	男	50才代	建設業	屋外	屋外で護岸工事を行っていたところ、突然倒れたため救急車で病院に搬送した。
	5月	17時台	男	30才代	警備業	屋外	道路工事現場の交通誘導を行っていたが、業務が終了し、帰宅しようとしたところで意識喪失となった。
	6月	17時台	男	60才代	警備業	屋外	学校の委託警備に従事していたが、警備業務中に倒れ、病院に搬送された。
	6月	11時台	男	20才代	建設業	屋外	駐車場の屋根工事中、梯子から降りている途中で失神し、仰向けに倒れ頭部を強打した。
	7月	18時台	男	40才代	建設業	屋外	朝から夕方まで1日測量作業に従事し、片付け作業中にふらついたため、病院に搬送された。
	8月	14時台	男	20才代	警備業	屋外	駐車場の交通誘導を行っていたところ倒れ、病院で脱水症と診断された。
26年	8月	17時台	男	60才代	運送業	屋外	荷卸し作業後、トラックの運転をしていたところ気分が悪くなり路肩に停車させたところ意識を失った、近隣の住民により発見され救急搬送された。
	7月	10時台	女	40才代	製造業	屋内	編み作業中、手がしびれて、動悸、息切れがし、休憩したが、気分が良くなり、病院で診察を受けた。
	8月	9時台	男	30才代	林業	屋外	現場確認に向かう途中に気分が悪くなり、休憩をとったが、気分がすぐれずに病院に搬送された。
	8月	17時台	男	40才代	製造業	屋外	部品据付け作業中、足が動かなくなり、手もしびれてきたため、病院で診察を受けた。
	7月	17時台	男	30才代	運送業	屋外	荷積み作業中、大量に汗をかき足先が引きつってきて、体が痙攣し、意識がなくなり、救急搬送された。

27年	8月	15時台	男	30才代	清掃業	屋外	窓ガラス清掃作業終了前から頭痛、吐き気がしてフラフラし、翌日病院で診察を受けた。
	8月	5時台	女	50才代	小売業	屋外	配達を終えて、原付で帰店中に意識が薄れて、転倒し、病院に搬送された。
	8月	15時台	男	30才代	建設業	屋外	コンクリート打設終了後、脱水状態になり、救急搬送された。
28年	7月	13時台	女	30才代	清掃業	屋内	清掃作業終了後、気分が悪くなり更衣室で倒れ込み、救急搬送された。
	7月	11時台	男	10才代	製造業	屋外	製品補修作業中、頭痛と倦怠感があつたため事務所で休憩し、病院で診察を受けた。
	8月	18時台	男	50才代	製造業	屋外	製造作業終了後の帰宅準備中に、左足の痺れを訴えたため、病院に搬送された。
	8月	13時台	男	50才代	警備業	屋外	駐車場の料金徴収作業中にフラフラして倒れた。
	8月	16時台	男	50才代	建設業	屋外	資材の整理作業中にふらつきやびれが起こつたため、事務所で安静にした後、病院に搬送された。
	8月	9時台	男	40才代	製造業	屋内	商品の梱包作業を行っていたところ、手足の痺れ、吐き気、頭痛に襲われ、休憩室で安静にしたが快復しなかつたため、病院に搬送された。
	8月	18時台	男	20才代	運送業	屋外	集配中に吐き気と腹痛を感じ、帰宅後に症状が悪化した。